



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
TEL:0593-32-0733

掲示板法話

仏法は 苦悩を共に

乗り越える智慧を生むエネルギー

いよいよ七月、暑い夏の到来です。水や空気とともに、電力を当たり前のように使う生活に慣れつこになってきたお互いにとって、節電の夏は辛いですね。また、沢山電力を使う産業の海外流出、つまり産業の空洞化は雇用機会の縮小につながりますから、単なる「脱原発論」では済まされたい、深刻なイデオロギー対立をはらんでいます。

面白い詩を紹介いたします。

おかげさま

夏が来たら 冬がええといい
冬になりや 夏がええという
借りた傘も 雨があがったら邪魔
金をもつたら 古びた女房も邪魔
所帯をもつたら親さえも邪魔
かわききった あじけないこの頃
衣食住は昔に比べりや天国やが
上を見ては 不平不満
隣をながめては 愚痴ばかり
なんで自分を見つめないのか
静かに考えてみるがええ
一体 自分で なんやろう
親のおかげ 先生のおかげ
世間さまのおかげ



おかげの塊まりが 自分やないか
いくら長う生きても
幸せのど真ん中においても
おかげさまが見えなけりや一生不幸

かみどころじゅうすけ

この詩を読んでドキッとさせられるところが随所にありますね。「金をもつたら……」「所帯をもつたら……」という部分など、心当たりの方があるのではないでしょうか？

それは特定のどなたかだけの話ではありません。便利さ、豊かさを追い求めて止まることを知らない我々現代人の悲しき性(さが)を浮き彫りにしています。「どれだけ便利で快適な文明生活を享受しても、『おかげさま』が見えなければ一生不幸ですよ」と、かみどころさんは教えてくれます。更に、「おかげさまの心」を現実の課題にどう生かすか、仏教徒の智慧が問われます。

「フクシマ」事故を前に支援の手立てなく悩んだ結果、苦悩を分かち合うには喜んで節電を受け入れようと智慧を絞った仏教系の保育園があります。夏はグリーンカーテンの陰でできるだけ野外保育をする。風の通る工夫を凝ら

☆行事ご案内☆

◇7月の門信徒会例会

7月15日(土)夜7時半より

①「正信偈」の現代語訳が「しんじんのうた」です。
拝読の練習と共に、意味を味わいたと思います。

※「お磨き」と打ち合わせ 7月29日(日)午前8時より
新行事さんよろしく！1時間ほどで終わります。

◇キッズサンガ7月7日(土)午後4時より

お友達も誘ってきて下さい。 毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK ガム付。年中無休

◇三重組コーラス 7月2日(月)名古屋別院音楽祭

参加費3千円 バス小杉9時、桜9時半出発、3曲披露

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。

「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設3年11ヶ月で7万7千訪問、一日平均100以上！悩み相談もOK。

〔 三重組行事案内 〕

☆7月3日「三重組十三日講」明林寺様(井上慶真先生)

【一縁会テレホン法話】 059・354・1454へお電話を！

3分間で法話が聞けます。

☆平成24年度門信徒会・新会長に佐藤和義氏、会計に服部徹次氏、婦人部に館澄代氏が選出。よろしくお願ひします！

☆三重組新連研受講者、佐藤和義氏と佐藤和美氏の2名が、7/27より2年間に渡って参加されます。頑張ってください

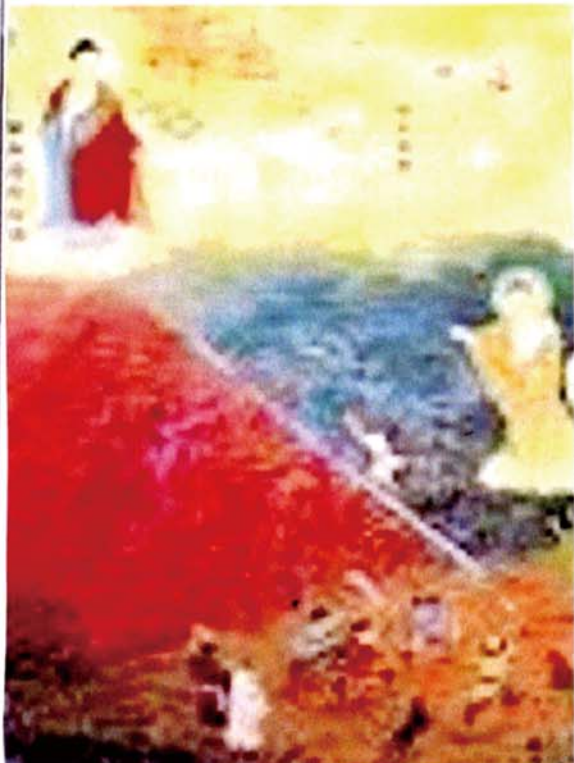
☆長男潤爾の初著書『読んで旅するヨーロッパ』(三学出版)6月下旬発売。2千円。歴史的考察を加えた本、表紙は若嫁



生後3ヶ月初孫の亮爾
体重は2倍以上に！
すっかり抱き癖がつかました

す。冬暖房に頼らない園児の身体づくりにした結果、アレルギーの園児が減ったとのことです。それを豪雪地帯の新潟県長岡市でやり遂げ、父兄からも喜ばれているそうです。(恵和保育園)

原発事故は対岸の火事ではない。「衆生病む故に我病む」と仏様は言われる。仏教徒は「苦悩を共にせずにおれぬ」という仏様の心に生きなければならぬ。こんな仏教徒が前向きな節電の智慧を生み出したのです。仏教の教えは、苦悩を共に乗り越える智慧を生み出すエネルギーとなつて働くのですね。



「二河白道」の図式
善導大師「観經四帖疏」に依る。火の河(怒り、憎しみ)、水の河(欲望、執着)が迫る一筋の白道を往く旅人に東岸から「この道を往け」という釈尊の声、西岸から「直ちに來たれ。我よく汝を護らん」という弥陀召喚の声がかかるの図。

坊守スケッチ

進むも地獄、退くも地獄



NHKの番組(6・10夜放映)で『激動トヨタピラミッド』を見た。世界のトヨタと言われる企業でさえ、今大きな変革を迫られている。中国やインド、さらには韓国までもが、トヨタを苦しい状況に追い込んでいく。売上高世界一を誇っていたのは、もはや過去の栄光。従来のトヨタを支えてきたのは、第一次、第二次、第三次と言った下請け企業。それがピラミッドを構成するような体質になっている。親会社の不況の影響で厳しいコストダウンを求めてきたら、下に行けば行くほどそのあおりで黙って従わなければならない。番組は一年間に渡って、ある二次下請け企業を追っていた。堅実な中堅企業であったが、創業者は退き、外部からの有能な人が社長に就いた。リーマンショック後、営業成績は最盛期の半分まで落ち込んだが、上からは大幅なコストダウンを求めてきた。最後は人件費の削減に手をつけた。新社長は、会社が生き残る為に海外進出を目指してピラミッドの一角に入る道を選んだ。その選択は決して甘くは無かった。仕事も容易にももらえず、現地人も思うようには働いてはくれない。このまま日本でギリ貧の状態を見届けるのも地獄、海外に進出して地獄。新社長の苦悩の日々が続く。生き残る

為にはどこまでも激しい競争が続く。新社長の「ただ一生懸命やるしかない」という言葉に、逃げるに逃げられない苦しい胸のうちが伺われ、目には薄っすら涙が浮かんでいた。

この番組を見て、私はかつて法話で聞いた『二河白道』(にがびやくどう)の話の思い出した。善導大師の『観経疏』に出てくる比喩であるが、それを図式的に表すと次のようになる。

上半分の中央に阿弥陀如来、左右に観音菩薩、勢至菩薩が鎮座。中央から下にむけて細く白い道が続く。その道の右側は水の河(欲や執着の河)が逆巻いている。左側は火の河(怒りや憎しみの河)が炎となつて燃え盛る。背後や行く手には盗賊や悪獣が襲いかかろうとしている。旅人は立ちすくんでしまうが、東の岸からは「往け」のお釈迦様の声、西の岸から「来たれ」の阿弥陀様の喚び声が聞こえる。旅人はその声を信じて、極楽浄土を目指して一人で白い細い道を歩むという喩え。

今まさに私達はこの絵の旅人と同じようなもの。競争の激しい時代を、一刻の猶予もなく生きぬかなければならない。真つ暗闇のこんな苦しい時代だからこそ、一筋の光を信じて歩みたい。自分を決して裏切らない、確かなもの、それが宗教の存在ではないだ

ろうか?心が安らぐ生活、「何が起きても大丈夫!」と後押しをしてくれる存在、それがお念仏の生活というものではないだろうか?私も旅人の一人。白い道を信じて今日もしっかりと歩んでゆく。

☆寄稿



四日市市川崎孝一
☆お住まいの 各所に具ふ 石川師 辞書の活用 法話で説きぬ
☆初穫りの 塩かけ胡瓜 切り口に 噴き出る滴 味わうあした
☆青紫蘇も 苗より芳し 実を食めば ぶちぶち感の 齒触りも良し

四日市市 釈妙水
☆稚児寝顔 覗く大人や 風薫る
☆何回も 巢を視察する 親燕
☆来開花 折って剪枝 梅雨に入る
☆ホットニュース☆
☆6月23日(土)「亮齋誕生祝賀会」& 懇親会 午後5時より祝宴 生桑 ヲラ
ツクス於バス迎え3時過ぎ善正寺駐車場、4時より入浴可、ご夫婦での参加歓迎、41名が参加されました。
☆長男潤爾の初めての著書『読んで旅するヨーロッパ:イタリア、フランスを中心に』(三学出版・定価2千円、6月下旬発売中)ヨーロッパを単なる観光だけではなく、深い歴史的考察を加えた一味違った本。是非一度お読み下さい。
☆新刊本一縁会テレホン法話14冊目の本『心おきなく迷っていける』発売中!

☆善正寺のホームページ。「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設3年11ヶ月(7万7千アクセス突破1日平均100訪問。悩み相談メールでも歓迎。
♪三重組コーラス♪
☆練習場所・智積 西勝寺様
7月2日(月)名古屋別院音楽祭(バス乗車) 9時小杉、9時半桜曲・あなたと出逢って、み教えをあなたと聴く、上を向いて歩こう 参加費3千円
キッズサンガ・杉の子合唱団
☆7月7日(土)午後4時より 友達を誘って来てね!鐘撞きは年中無休で夕方5時。ご褒美にガムや飴
平成24年度今後の主な行事予定
◇「秋季永代経」8月18(土)・19(日) 午後加藤正人師(桑名)
◇「報恩講」11月2日午後1時半と夜6時半・3日午前10時・午後1時半と夜 仏壇報恩講 講師大島信隆師(岸和田) 今年から報恩講が11月に変わりますので、よろしく願います。
◇「秋勧進」11月23日午前
◇「お内仏報恩講」12月1日(土)夜

☆編集子より ☆

「善正寺だより」第二二三号をお届けします。◇欧州金融危機が再燃し、日本も「税と社会保障改革」、原発再稼働で国論二分。被災地瓦礫処分未だ停滞。◇まさに節電の暑く熱い夏。二元対立を超える中道の智慧が求められます。

梅雨にはアジサイが似合います。アジサイは色の変化を楽しむながら時の移ろいを感じます。忙しい現代ではそういうゆとりを持つ人が少ないようです。子育てもアジサイのように「待つ」ことが大切で、昔の人はコミニケーションの手段として手紙をやりとりしました。今ではケータイやパソコンで瞬時に情報が行き交い、相手から即座に返信が来ないとイライラ。「待つ」時代から「待たされる」とストレスの時代に変わりました。「キレる」という言葉はかつては若者に使われましたが、今や老人にも使われます。病院や駅、銀行やスーパーレジ等で「待てずに怒鳴り散らす老人」。「待てない我慢できない、止まらない」新老人が急増中です。隣人の騒音で殺人事件に発展するなど、些細なことでカッとなります。何故こうした老人が増えたのでしょうか？ある専門家は「核家族が増えて狭い価値感で自分勝手に生きている人が多いため」と語っています。仕事以外に他人や地域と関わることを避けてきた結果です。昔は冠婚葬祭を通して「おたがいさま」や「手間返し」の心を学んだのです。将来は老人ホームに入るから子供の世話にならん」と突っぱねる人がいますが、今後老人ホームもジコチュウな人で溢れて住みにくい終の棲家になるのではないのでしょうか？「待つ」ことができる人間になれるよう精進したいものです。天候不順の折、ご自愛下さいませ。

平成二十四年七月 合掌

善正寺坊守拝